

平成29年度 札幌自由が丘学園三和高等学校 学校評価結果

和寒町教育特区学校審議会条例第2条第1項第4号により、三和高等学校について、平成29年度の学校運営全般の状況について同校から提出された資料やスクーリングの視察等を通して下記のとおり評価を行いましたので結果を町長に報告します。

| 評価項目                  | 評価の視点  | 評価    | 所見  |
|-----------------------|--|-------|---|
| 1<br>各教科の状況           | 教育課程の適切な運用と状況<br>教科指導の状況<br>進路指導の状況          | 優れている | 本校のカリキュラムの大きな特徴は、「北海道科」の設置であり、それを各学年で履修させていることである。北海道の歴史や文化、産業をひもとくことによって新しい気づき生まれ、体験を通してこれからの未来への可能性を実感させている。さらに、それを生徒個々の郷土愛にまで高めようとしている点は大いに評価できる。また、教科指導においては、基礎学力の定着に力を注ぐために個に合わせ指導形態を駆使している。そのことを通して、生徒は学ぶことや努力することの大切さを学んでいる。それが進路指導にも反映され、夢が現実になり、確かな目標への取組になっている点は、本校ならではの指導体制の成果と評価できる。今後は、外部人材のさらなる活用や図書館の整備を望む。    |
| 2<br>生徒の状況            | 生徒指導等の状況<br>生徒の人格的発達の状況<br>安全管理の状況<br>要望等の状況 | 優れている | 本校に通っている生徒の中には、過去に不登校になったり、学校生活につまずいたりした経験をもつ生徒が少なからず通っている。そのような生徒たちが、学校生活を通して表情を明るくして談笑している姿や、学習に真剣に向き合い自分の歩幅で歩いている姿に変容するのは、生徒指導の体制が充実していることに他ならない。創立以来の建学精神が、生徒に学校生活を楽しみ未来を考える雰囲気醸成し、学校が誰もが安心して楽しい学校生活を送ることができる場所、生徒たちの居場所となっている点は高く評価できる。今後は、生徒がさらに自分の速度で確実に成長していくために、生徒とのコミュニケーションを密に生徒自らによる自治活動や自主活動の展開に力を注ぎ自立していくことを願う。 |
| 3<br>学校管理運営の状況        | 組織運営等の状況<br>教育目標と学校評価の状況<br>設置者と学校の取組状況      | 良い    | 本校の学校運営状況は、学校評価等を通して透明化を図っている。そういう中で、「環境が人を育てる」の如く、様々な施設設備が満ち足りているとは言いがたい現状にある。その最たるものは、図書室の整備である。早急の改善を望みたい。また、札幌学習センターがビルの一角に間借りしている状態の中で、施設の老朽化が加速し様々な影響が懸念される。学校経営という視点で、中・長期的な展望の中での改善を図りたい。   |
| 4<br>学校・家庭・地域の連携協力の状況 | 学校に関する情報公開の状況<br>学校と保護者・地域住民等との連携協力の状況       | 良い    | 家庭との連携において、保護者の学年を超えての情報共有や保護者同士の相談の機会を設定したり、地域連携においては、三和高校後援会との協力関係を密にするために、生徒の教育活動のみならず、保護者が和寒町の各種イベントに参加できる体制を構想し実現に向けて努力している点は評価できる。また、「和寒町教育特区学校審議会」を通じた情報公開は、学校の運営全般や生徒状況等を理解し、「後援会」はもとより地域全体で支援する情報源にもなっている。今後、様々な人との関わりを大事にし新たな発想による教育活動の展開を望む。   |

|   |            |                        |    |  |
|---|------------|------------------------|----|--|
| 5 | 学校設置による効果  | 学校が設置されたことによる経済効果      | 良い | 和寒町のフィールドを生かした教育活動は、年々生徒の好評を博している。しかし、それがどれだけの経済効果を生んでいるかは読み取れない。スクーリングで生徒が来町しての経済効果は稀少であるが、大事なことは、今来町し体験している一つ一つのことが、未来にどのような結びつきをもたらすかであろう。”好評”の中身は様々であるが、少なくとも生徒の成長の糧になっていることは間違いない。ある意味、和寒町で過ごした一時が心の拠り所として、郷土を思い愛する心につながっているとすれば、生徒の将来の支えとして和寒町の果たす役割は大きい。今後も、三和高の実践を通して和寒町の魅力を大いに発信してほしいと願う。 |
| 6 | 町との連携協力の状況 | 町への現状報告及びセーフティネット対策の状況 | 良い | 和寒町での宿泊学習では、農業体験、文化活動体験、職業体験と非常に多くの体験学習を味わっている。生徒にとってはこの上ない教育活動であるが、これらの体験を可能としているのは町民の存在である。よって、学習における住民とのふれ合いは不可欠で、このふれあいを通して生徒の心を開放し、癒やしている。このような温かな町民との関わりの中で、生徒は人と人との絆を深め、自信を高めながら自分の将来をより具体的に考えるよい機会となっている。また町民も、生徒から刺激を受け和寒の魅力発信に力を注いでいる点は、和寒町の活性化につながりよい意味での相乗効果が生まれてきている点は評価できる。          |

|      |    |
|------|----|
| 総合評価 | 良い |
|------|----|

|      |   |
|------|---|
| 総合所見 | <p>三和高等学校評価基準に基づき総合的に評価を行った結果、「北海道科」において、北海道の歴史や文化、産業をひもとくことによって新しい気づきに触れ、体験を通してこれからの未来への可能性を実感させている。さらに、それを生徒個々の郷土愛にまで高めようとしている点は大いに評価できる。また、教科指導では一斉指導と個別指導を柔軟に組み合わせ個に応じた指導を展開したり、生徒指導では、生徒や保護者の面談を通してコミュニケーションを図っている点は、正に生徒一人ひとりに目を配ることのできる環境づくりに力を注いでいる本校の建学精神と合致している。加えて、和寒町のフィールドや人材を活用した体験活動を通して和寒町民との交流を活発化させ、ひいては経済効果を高めようとしている点は今後に期待できる。今後は、「学習支援日」の充実とともに学校内の環境を整備し、時代のニーズに合った教育をより促進してほしい。</p> |
|------|---|

評価については、「模範的」、「優れている」、「良い」、「おおむね満足」、「要改善」の基準で評価しています。